

少花粉コンテナ苗の安定生産

セル幼苗を活用したコンテナ苗生産作業の平準化・生産効率化など

【背景・目的】

- 岡山県では、花粉症対策を推進するために、少花粉スギ・ヒノキへの植替えを進めています。この植替えには、植栽時期が幅広いコンテナ苗を使用しますが、苗木を育てる作業が春に集中することが課題となっています。
- そこで、この課題を解決すべく、セル幼苗を用いたコンテナ苗生産技術を研究しています。

※ コンテナ苗：樹脂で成形されたコンテナ容器で育成された苗木
セル幼苗：小型の育苗容器（セルトレイ）で育成された苗木でコンテナ容器へ移植する

《従来》畑で育てた幼苗を春にコンテナへ移植



→
・春に移植作業が集中
・人手不足等
⇒ 生産拡大が困難
作業平準化の点では...



《新規》セルトレイで育てたセル幼苗であれば、移植適期が広がる可能性 (秋の移植等ができる可能性あり)



→
・根鉢があるので乾燥に強い、移植作業が比較的容易
・播種の機械化が可能
⇒ 生産拡大に有利な可能性

少花粉コンテナ苗

- ▶ 根鉢があることで乾燥に強く、植栽時期が幅広い
⇒ 伐採と造林の一貫作業に適しており、伐採後の再造林率向上に貢献
- ▶ 花粉をほとんど生産しない
⇒ 花粉症対策に貢献

【主な研究の内容】

①セル幼苗の効率的な播種・育苗方法

- ▶ 気象変化等の影響を受けない閉鎖型苗生産装置を活用し、播種時期別に、セル苗の最適な発芽・育苗条件を検証します。



閉鎖型苗生産装置

生産マニュアルを改訂し、研究成果を普及します。



もみ殻埋設による越冬

②セル幼苗の移植可能期間

- ▶ セル幼苗のコンテナへの移植時期別に活着率・成長量等を調査します。
- ▶ セル苗の越冬保管技術を検証します。

少花粉コンテナ苗の安定生産・増産

お問い合わせ先

岡山県農林水産総合センター 森林研究所
勝田郡勝央町植月中1001 TEL. 0868-38-3153